

女子レースの展望

2022年5月18日

競輪最高会議

1. 前回車両競技小委員会における指摘事項への対応について

- 2021年3月15日第16回産業構造審議会 製造産業分科会 車両競技小委員会において、キャッチフレーズ『顔より太もも』及び愛称『ガールズケイリン』について指摘があった。
- 2022年に10周年を迎える契機であること、またジェンダー平等など社会の変化を踏まえ、愛称も含めた女子レース全体のマーケティングについて、調査・分析を実施し検討を行った。

キャッチフレーズの対応

- ・公式サイトをはじめとするWEBサイト掲載文言を削除。
- ・関係団体、競輪場、サテライト等に対し、ポスター掲出終了依頼文書を発信し、掲出を取り止めた。
- ・ラ・ピスタ新橋掲出看板デザインの差替を実施。



←差替後ビジュアル

『競輪は、
進化する
スポーツだ。』
へ変更。

愛称の対応

- ・愛称について調査、分析プロジェクトを立ち上げ、検討を行った。

調査、分析の対象

- 【一般市民】意識調査の実施（1,000名）
- 【女子選手】アンケートの実施（146名）
個別ヒアリングの実施（9名）
- 【有識者】ジェンダー研究者、スポーツメディア編集長等、
個別インタビューの実施（4名）

調査、分析結果

- ・一般市民調査では、愛称に対し女性向けに感じる（約3割）、可愛さがある（約2割）とのイメージを持っており、時代に合っていないとの回答は約1割で愛称の**変更を必要とする明確な傾向は存在しなかった。**
- ・選手へのアンケート結果では、**9割が変更しなくても良いと回答。**ヒアリング結果でも愛称に**愛着を持っており**、お客様への浸透度やこれまで築きあげてきたものに対し一種の財産と捉えていた。
- ・有識者からは、愛称は選手自らが名乗っていることや**選手の価値観が大事であること**、マーケティングの訴求内容を見直し、**アスリート、競技面を打ち出すことで若年層に向けたマーケティングを展開すべきであるという指摘があった。**

検討結果

愛称については、**今までの財産を継承する**一方で、コンセプトを改めて見直す**リブランディングを実施すること**とした。

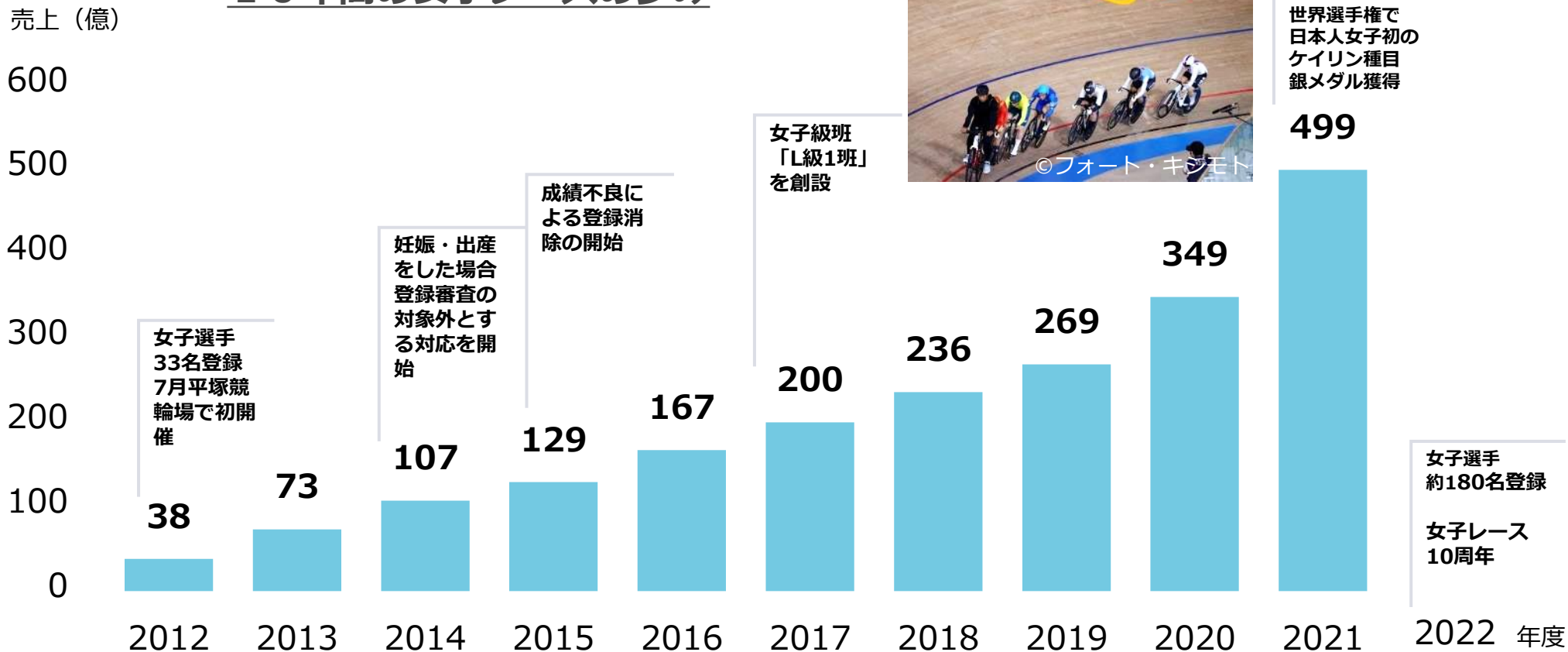
2. 10年間の歩みとこれからの10年に向けて

2012年7月に48年ぶりに復活した女子選手によるレースは、この10年間で選手数が当初の33名から約180名に増加し、売上も当初の38億円から年間500億円近くまで伸びてきている。

その間、特別レースの制定など制度の整備や、選手の個性を打ち出したプロモーション等を展開し、新たな顧客層の拡大に取り組んできた。

今年10周年の節目を迎えるにあたり、事業を取り巻く社会や環境の変化に対応するために、今後の新たな10年の展望についてとりまとめを行った。

10年間の女子レースの歩み



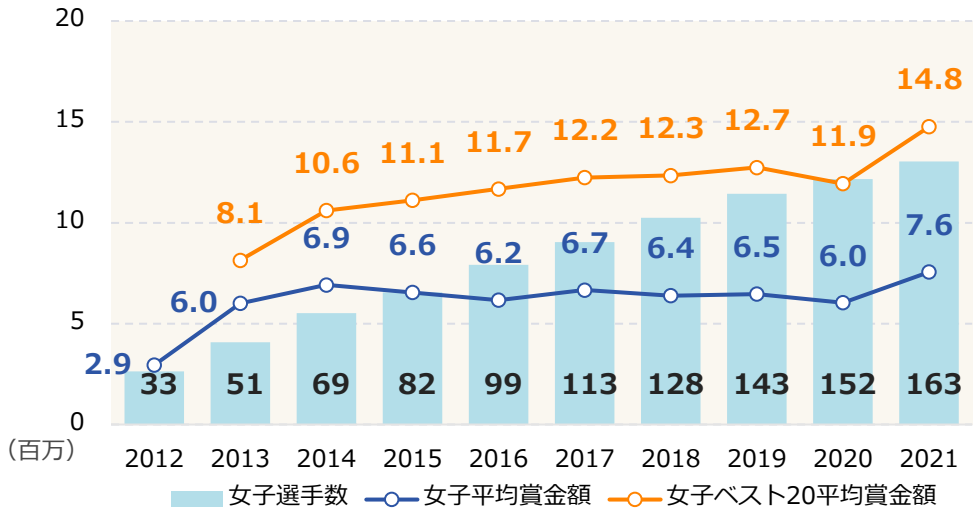
3. 女子レースの現状と課題

① 日本競輪選手養成所の女子応募者数は大きな変化がなく推移している。自転車競技未経験者を対象とした試験も実施し、他スポーツ経験者へも積極的に門戸を開いてきたが、倍率（2.4倍程度）は男子選手の半分ほどで横ばい傾向を示している。

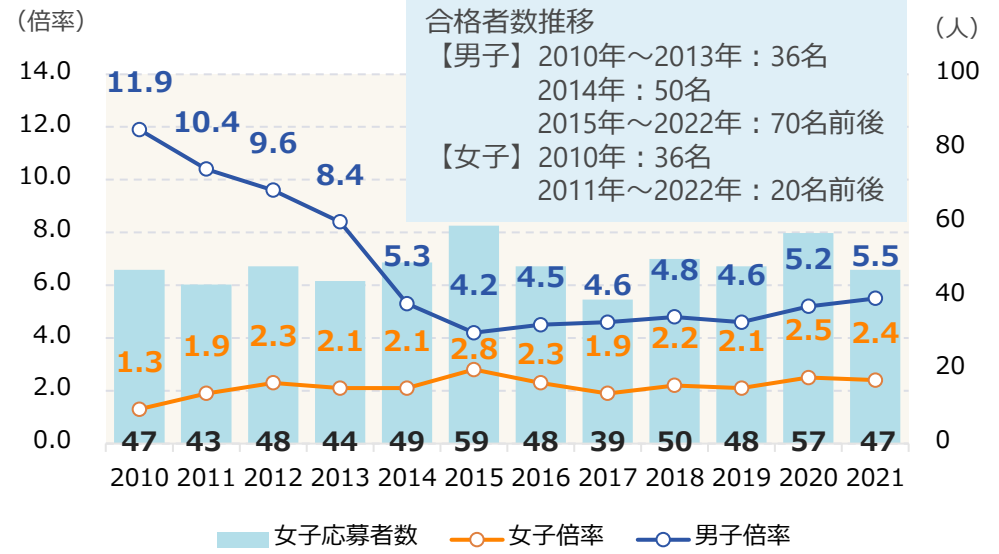
今後有望な選手を確保するためには、**職業としての魅力向上及び競技者の裾野を拡大する必要がある。**

② 選手数は順調に増加しており、上位層の賞金額や全体の平均賞金額も伸びてきた。今後も選手が競走に集中できるよう、**ハード面・ソフト面ともに環境整備をさらに進める必要がある。**

② 女子選手数・賞金推移



① 日本競輪選手養成所応募者数・倍率推移



←自転車競技未経験者を対象とした、日本競輪選手養成所入所試験の体験イベント

→中学生以上の女性参加者を対象とした、専門的な指導を受けられる合宿イベント



3. 女子レースの現状と課題

③ これまでのプロモーション展開



←Bリーグ
アルバルク東京
でのイベント

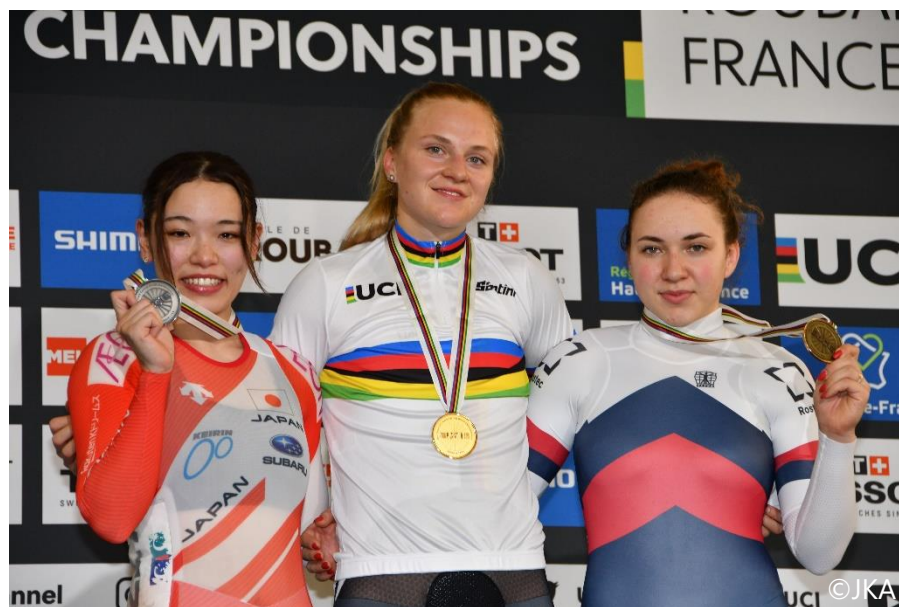
→日本最大級のファッションイベントである「関西コレクション」への出演



③ これまでは選手の個性を打ち出したプロモーションの展開や、公営競技以外のイベント出演を通して女子選手の存在を周知してきた。

今後はこれまで不足していたレースの本質的魅力を訴求するため、**スポーツ性に重点を置き、アスリートとしての魅力を高めるプロモーションを展開していく必要がある。**

④ 自転車競技での活躍



↑ 2021世界選手権フランス大会
日本人初の女子ケイリン種目銀メダル獲得
佐藤水菜選手

④ 日本人初の東京五輪ケイリン種目出場、同じく日本人初となる世界選手権ケイリン種目での銀メダル獲得など、近年世界の舞台で活躍しているが、五輪ケイリン種目でのメダル獲得までには至っていない。

さらなる競技力向上のためには、**選手育成の仕組み、トレーニング施設の改善や専門的人材の確保などを進める必要がある。**

★女性メジャースポーツとしての地位獲得★

- ・女子選手が憧れの存在となり、プロスポーツ競技として広く認知されることを目指す。
→アスリート面を訴求したプロモーション展開



★競技に集中できる環境整備★

- ・女性アスリートの心と身体の悩みをサポートできる体制構築を目指す。
→産後復帰用トレーニングメニューの開発・提供
- ・競輪場の女子選手向け設備の改善を目指す。



ビジョン

プロスポーツ競技のまんなかへ。

スポーツコンテンツの中心
憧れの存在の中心
世界レベルの中心
となる

プロスポーツ競技を目指す。

★選手の競技力向上★

- ・世界トップレベルの選手の育成を目指す。
→五輪ケイリン種目メダル獲得を目標に、強化指定選手への支援を強化
- ・選手全体の脚力底上げを目指す。
→下位選手対象の選手訓練実施



★女子レースの拡大★

- ・競輪売上の一翼を担う位置付けを目指す。
→収益の確保を前提としたレース数の拡大
- ・レース数拡大に対応する選手数の増加を目指す。
→継続的な新人選手の確保、
地域における競輪選手育成支援の実施



2012年7月1日から平塚競輪場にてスタートした女子レースを楽しんでいただいているお客様への感謝を込めて、10周年記念事業として特別な開催やレースを実施する。

また各開催に向けて、10周年の感謝を伝えるプロモーションを展開する。

新コンセプトに基づき、新規お客様獲得に向けたリブランディングを展開する。

**10周年記念開催
「ALL GIRL'S 10th
Anniversary」**
6月29日(水)～7月1日(金)
(平塚競輪場)

**10周年記念レース
「ティアラカップ」**
9月19日(月・祝)
(名古屋競輪場)

**ガールズグランプリ
2022**
12月28日(水)
(平塚競輪場)

- ・ 初となる、全12レース女子選手のみ84名が集結する開催を実施。
- ・ グループA・B各42名に分け、3日間での実施。

- ・ GⅡ 共同通信社杯最終日に一発勝負の1レースを実施。
- ・ 2012年～2021年のガールズグランプリ歴代優勝者を中心に選考。

- ・ 年内の優秀女子選手を選考し一発勝負の1レースを実施。
- ・ その年のチャンピオンを決定。
- ・ 年間で最も注目されるレースを契機として、リブランディングを展開。

お客様へ10周年の感謝を伝えるプロモーション

リブランディング